

水族館における水圈環境教育の可能性 —職員に対するインタビュー結果を踏まえて—

滝沢尚子（東京海洋大学）・佐々木剛（東京海洋大学大学院）

【要約】

「観察し, 考え, 理解し, 行動し, 伝える」ことができる人材の育成を目指す水圈環境教育の水族館における応用の可能性を探るため, 水族館職員にインタビューを行った。インタビューを基にして, 職員の水族館における教育に関する意識を分析した。その結果, 教育の方向性は, 水圈環境教育の目標と付合しており, 水族館における教育活動は, 水圈環境教育が目指す持続可能な社会を実現する人材の育成に貢献する施設として有望であることが示された。

【キーワード】

水圈環境教育, 水族館における教育, 水族館職員, インタビュー

1 研究の背景

(1) 水族館における教育

我が国で 1951 年に制定された博物館法（法律第 285 号）¹によると, 水族館は博物館の 1 つであると定められており, ここで指す「博物館」とは, 「歴史, 芸術, 民俗, 産業, 自然科学などに関する資料を収集し, 保管（育成を含む）し, 展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し, その教養, 調査研究, レクリエーション等に資するために必要な事業を行い, あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関のうち, 第 2 章の規定による登録を受けたもの²」（同法第 2 条第 1 項）のことである。

日本で最初の水族館は 1882 年, 新設された上野動物園内につくられた「観魚室」という小水族館であった³。最初は, 外国の珍しい生物入手することが困難であったため, 地元で採集される生き物を紹介する場としてその役目を果たしてきた。そこから, 現在に至るまでの間に, 外国からさまざまな手法が流入し, 外国産の珍しい生物を採集することも可能となり, 水族館ブームなども経て人気もあがり, 水族館数は増え, 現在のような, 様々な生物を展示し, エンターテイメント性も兼ね備え, 多くの国民に周知されているいわゆる, 現代における「水族館」となった。水族館という施設に関する明確な法定義がないため, はっきりしていないが, 我が国の現在の水族館数は, 100 館程度⁴であると考えられている。

水族館には, その展示方法や内容の工夫によって来館者を驚かせ, かつ, 楽しませる工夫が施されている。普段陸上生活では見ることができない水中にすむ生物を気軽に観察できるのは, 水族館であるからこそである。また, 水族館は幅広い世代に親しまれ, 生物を見るためだけでなく, 遊ぶ場, 癒される場としても利用されている。

日本動物園水族館協会（以下, JAZA）は, 国際的な視野に立ち, 自然や貴重な動物を保護するためにできた動物園や水族館の集まりである。JAZA は, 動物園や水族館の目的として「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」⁵の 4 つをあげている。